

○ 平成30年度 学校教育自己診断集計結果

評価 ジャンル	生徒						保護者						教員						結果と考察									
	1	2	3	4	肯定	否定	肯定	否定	1	2	3	4	肯定	否定	肯定	否定	肯定	否定										
学校生活	1 学校へ行くのが楽しい	31	36	14	6	77.0%	23.0%			1 子どもは学校へ行くのを楽しみにしている。	30	25	10	2	82.1%	17.9%			23 学校行事が生徒にとって魅力あるものとなるよう、工夫、改善を行っている。	16	25	2	0	95.4%	4.7%	<p>・3属性共に前回よりも肯定率が上がっている。特に、生徒・教員共に5%以上向上しており、行事の改善や部活動への参加など教員が意識的に取り組んだことに対して一定の成果が見られたことがうかがえる。</p> <p>・生徒会・委員会活動については、前回より数値を落としているが(生徒84%→77.0%)、設問内容を「参加している」から「活動を通して学校が良くなっていると思う。」と変更したことが原因と考えられる。見かけの肯定率は下がっているが、各委員会活動が活性化している中で、今後はこの設問内容での数値の変化を見極めることが重要だと考える。</p> <p>・クラブ活動について、今年度の新入生を積極的に勧誘し、参加率を高めることができた。その上で、昨年同様希望者の途中転部を認めると共に、ルールは敷きつつも参加の強制をしない形での活動を行ったことにより、退部者を抑えることができていた。結果、昨年よりも大幅に肯定率を上げることができていた。(生徒61%→75.9%)</p> <p>・新しい項目である、21の学校設備についてはまずまずの肯定率であった。(生徒85.1%)</p>		
	14 学校祭・体育祭・宿泊研修などの学校行事は、楽しみである。	43	30	9	5	83.9%	16.1%			23 体育祭や校外学習・宿泊学習などの学校行事は、生徒が参加しやすい工夫されている。	31	34	2	0	97.0%	3.0%			24 生徒会の運営と活動が自主的にできるよう、担当者の支援が行われている。	16	25	2	0	95.4%	4.7%			
	15 生徒会・委員会活動を通して学校が良くなっていると思う。	25	42	9	11	77.0%	23.0%	79.8%	20.2%	24 子どもは、積極的に部活動に参加している。	31	21	4	11	77.6%	22.4%	85.6%	14.4%										
	16 クラブ活動に魅力を感じている。	35	31	7	14	75.9%	24.1%																					
	21 教室や特別教室・体育館などは授業や生活がしやすいように整備されている。	37	37	8	5	85.1%	15.0%																					
授業	2 授業はわかりやすく、楽しい。	23	46	11	7	79.3%	20.7%			6 子どもは、授業がわかりやすいと思っている。	17	40	10	0	85.1%	14.9%			7 学習形態の工夫・改善を行っている。	9	28	4	2	86.1%	14.0%	<p>・昨年と比較すると、生徒・教員では大きな変化は見られなかったが、保護者ではやや肯定率の減少が見られる(93%→85%)。授業内容についての問題も考えられるが、昨年は回収率が低い中で肯定率が非常に高かったため、回収率の上昇(51.0%→71.3%)に伴う数値の妥当化とも考えられる。</p> <p>・生徒の項目では、「自分の考えをまとめたり、発表することが多い。」について肯定率が低く出ているが、年々数値は向上しており(53%→58%→63.2%)徐々に効果は出ていることがうかがえる。</p> <p>・教員の項目で、「9自立活動」の項目で昨年よりも大幅に肯定率が向上している(61%→76.8%)。このことから授業における自立活動について教員の意識が高まっていることがうかがえる。</p>		
	3 自分の考えをまとめたり、発表することが多い。	14	41	23	9	63.2%	36.8%	74.7%	25.3%							85.1%	14.9%	8 コンピュータ等のICT機器が、各教科の授業などで活用されている。	22	19	2	0	95.4%	4.7%				
	4 授業の内容や教え方など工夫している先生が多い。	30	41	12	4	81.6%	18.4%											9 授業の中で、自立活動の指導に当たっては個々の生徒が興味をもって主体的に取り組めるように工夫している。	12	21	10	0	76.8%	23.3%				
進路指導	5 学校生活で、将来の進路や生き方について考える機会がある。	50	26	6	5	87.4%	12.7%			14 学校は将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている。	24	39	4	0	94.0%	6.0%			14 生徒が将来の進路や生き方について考える機会を多く設けている。	31	11	1	0	97.7%	2.3%	<p>・3属性共に高い肯定率となっており、本校の大きな強みであることが改めて確認された。</p> <p>・保護者においては肯定率が高く、昨年と比べても大幅に上昇している(74%→94.0%)。このことは、肯定率の低かった「13学校以外の相談機関の情報を学校から入手できる」の項目を『情報発信・地域連携』のジャンルに移したことが大きいと、もう一方の「14学校は将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている。」を見ても肯定率は向上しており(88%→94%)、学校での進路指導の内容が保護者に伝わると共に、満足度が向上したと考えられる。</p> <p>・教員においては3項目とも95%を超える非常に高い肯定率となっており、本校の進路指導について自信を持っており、強みと認識していることがうかがえる。一方で、教員と生徒の肯定率差が10ポイント超あり、昨年よりも広がっているため、生徒に魅力が十分に伝わっていない可能性もある。</p>		
	6 学校は進路についての情報を知らせてくれる。	38	36	8	5	87.4%	12.7%	85.8%	11.9%							94.0%	6.0%	15 生徒一人一人が興味・関心、適正に応じて進路選択が出来るよう、きめ細かい指導を行っている。	28	14	1	0	97.7%	2.3%				
	7 先生以外の外部の方から、進路に関する話をきくのはためになったと思う。	38	35	8	6	82.8%	10.3%											16 進路指導において、福祉・労働機関等の関係機関と緊密な連携が出来ている。	26	15	2	0	95.4%	4.7%				
教員について	8 担任の先生に、困っていることや悩みを相談できる。	30	41	12	4	66.7%	33.3%			20 教職員は、いじめなど子どもが困ることがあれば、真摯に対応してくれる。	26	33	7	0	89.4%	10.6%			4 この職場においては教職員の服務規律への自覚が高い。	9	23	10	1	74.4%	25.6%	<p>・昨年の結果では生徒×教員の間で肯定率に大きなギャップ(25ポイント)が見られたが、今回では15ポイントの差と改善されており、保護者とのギャップも少ないため、3者間での認識が近づいてきていると判断できる。</p> <p>・生徒の「8担任の先生に困っている事や悩みを相談できる」や「9担任の先生以外に保健室や相談室等で気軽に相談できる先生がいる。」「10について、昨年よりもそれぞれ10ポイント肯定率が高くなっている。昨年実施されている「ランチタイム相談室」(毎日)や本年より始まった「何でも進路相談室」(水曜日)の他、保健室や分掌長、学年付き教員の丁寧な生徒支援が少しずつ数値に表れていると考えられる。ただし絶対値としては未だ低い肯定率となっているため更なる施策を検討する必要がある。</p> <p>・教員の「4この職場においては教職員の服務規律への自覚が高い。」の項目について他項目より数値が大幅に低くなっており(74.4%)、服務規律に関する認識が共有されていない可能性がある。どのような点でこの結果が出たのかを確認し、再度共有を図る必要がある。</p>		
	9 担任の先生以外に、保健室や相談室等で気軽に相談できる先生がいる。	23	30	22	12	60.9%	39.1%			27 教職員は、子どもの障がいを理解している。	25	29	4	0	93.1%	6.9%			12 教職員は生徒の意見をよく聞いている。	18	22	2	1	93.0%	7.0%			
	10 先生はいじめなどについて困ることがあれば、真摯に対応してくれる。	37	31	13	6	78.2%	21.8%	75.3%	24.7%	30 教職員は、すべての教育活動において、子どもの人権を尊重する姿勢で指導に当たっている。	25	28	5	0	91.4%	8.6%			17 教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教職員とも相談することが出来る。	23	18	2	0	95.4%	4.7%			
	18 先生は、自分のことを理解してくれている。	32	37	10	8	79.3%	20.7%											26 生徒の人権を尊重し、日常の教育活動を行っている。	23	18	0	0	100.0%	0.0%				
	19 先生は、みんなの意見を聞いてくれる。	42	32	9	4	85.1%	14.9%																					
	20 学校生活についての先生の指導は納得できる。	38	33	10	6	81.6%	18.4%																					
人権教育(道徳)	11 命や人権の大切さについての学習はわかりやすく役に立つ内容である。	38	36	8	5	85.1%	15.0%	84.5%	15.5%	19 学校は、子どもの発達段階や実態に応じて生命を大切にすることや人権を尊重する態度を育てようとしている。	20	39	6	0	90.8%	9.2%			13 教育活動において、生徒が命の大切さや人権尊重の態度を身につけるよう配慮している。	15	23	5	0	88.4%	11.6%	<p>・本校では、「道徳」として人権学習を行っていることが多いことを踏まえ、今年度は「人権教育」と「道徳教育」の2ジャンルを1つにまとめた。昨年に続き、3属性共に比較的高い肯定率となっており、本校の人権への取り組みや人権尊重の意識については一定の水準を超えていると判断することができる。今年度はこれまでの取り組みに加え、生徒を対象にしたLGBTIについての特別授業など新たな取り組みを行ったが、今後も社会人として必要な人権意識を確実に身に付けることができるよう、新たな取り組みも含め、活動を行ってきたい。</p> <p>・教員において「22道徳教育は、年間指導計画に基づき、継続して行っている。」の肯定率は、昨年より向上しているものの(67%→74.4%)、絶対値として低くなっている。次年度は年間指導計画を確実に作成した上で、それに基づいた授業実施を行う必要がある。</p>		
	12 社会のルールについての学習はわかりやすく役に立つ内容である。	38	35	8	6	83.9%	16.1%									90.8%	9.2%	22 道徳教育は、年間指導計画に基づき、継続して行っている。	8	24	9	2	74.4%	25.6%				
性に関する指導	13 性に関する学習は、毎年あり、わかりやすく役に立つ内容である。	39	32	8	8	81.6%	18.4%	81.6%	18.4%	21 性に関する指導は、段階を追って計画的に実施されている。	18	38	6	1	88.9%	11.1%	88.9%	11.1%	25 性に関する指導は、系統的・計画的に行われている。	25	16	0	0	100.0%	0.0%	####	0.0%	<p>・3属性共に比較的高い肯定率となっている。ただし、生徒と教員の間で肯定率に大きな隔たりがある。このことは、設問で、生徒においては「わかりやすく役に立つ」か質問されているのに対し、教員では「計画的に実施されている」ことについて設問されている違いが一因と考えられる。現状、年間指導計画の作成・周知とともに、指導内容がしっかりと引き継がれていることで、確実な実施ができているので、内容を生徒により分かりやすいものにブラッシュアップすることで、更なる向上が見込まれる。</p>
	個別の支援									25 学校は個別の指導計画・教育支援計画の目標や手立て等について、説明をしている。	30	34	3	0	95.5%	4.5%			27 生徒の指導計画・教育支援計画について、本人・保護者のニーズを踏まえ作成している。	20	20	1	0	97.6%	2.4%	<p>・保護者・教員共に非常に高い肯定率となっている。特に教員では昨年よりも大幅に肯定率が上がっている。ジャンル内の項目の変更もあるが、地域支援部による個別の指導計画・支援計画についての研修や啓発により教員の意識が高まっている可能性もあり、今後も維持をしていきたい。</p>		
									26 個別の指導計画・教育支援計画について、内容・評価を確認する機会が設定されている。	29	34	3	0	95.5%	4.6%	95.3%	4.7%	28 個別の指導計画・教育支援計画について、保護者に開示し説明している。	28	13	0	0	100.0%	0.0%				
									28 個別の指導計画・教育支援計画は、本人・保護者のニーズを踏まえ作成されている。	25	30	3	0	94.8%	5.2%			29 個別の教育支援計画・移行支援計画の作成、活用について、関係機関と連携を図っている。	13	24	4	0	90.3%	9.8%				
生徒評価									4 通知表は、子どもの学習の達成度を適切に評価できるように工夫されている。	32	33	1	1	97.0%	3.0%			10 教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている。	10	26	7	0	83.7%	16.3%	<p>・保護者では高い肯定率となっており、生徒評価が適切に行われていると捉えられていることがうかがえる。</p> <p>・教員では保護者に比べ肯定率が低いことから、評価の次年度以降の活用について不十分であると認識があると思われる。計画→実行→評価→点検→一次の計画と適切なサイクルを運用し、支援の質を高められるよう、引き継ぎや情報共有、相談の体制を強化していきたい。</p>			
									5 教職員は、子どもの学習状況や努力を適切・公平に評価している。	27	38	2	0	97.0%	3.0%	97.0%	3.0%							83.7%		16.3%		

